

2025 全日本ボクシング選手権大会

3階級
優勝



あきやま ゆうた
秋山 佑汰
2等陸尉

とりやべ かい
鳥谷部 魁
2等陸曹

よしざわ さつき
吉澤 颯希
2等陸曹

令和7年11月25日～30日までの間、ひがしんアリーナ（東京都墨田区総合体育館）において2025年全日本ボクシング選手権大会が開催された。自衛隊体育学校からは秋山佑汰2等陸尉以下8名が参加し、3名の全日本チャンピオンが誕生し、銀メダル1名（田中廉人3等陸尉）、銅メダル1名（富田真広3等陸曹）の合計5名の選手がメダルを獲得した。監督の本博国1等海尉は「今回の全日本選手権は、愛知アジア大会代表につながる大会であり新階級で実施された。アジア大会実施階級に実力者が集まり、32年振り日本での開催となるアジア大会に出場したい気持ちと重なり、ハイレベルな戦いとなった。2月下旬に実施されるボックスオフ（選考会）に、班から3名の選手が駒を進めたが、一人でも多くの選手を世界に輩出するため、これから更に強化していく所存である。」と語った。



昨年ウェルター級を制した秋山佑汰（あきやまゆうた）2等陸尉が、今年は階級を上げライトミドル級で本大会に挑んだ。初戦の2回戦で田中那知選手（日本大学）を2回1分37秒、RSCで下すと、準決勝では川村萌斗選手（東京農業大学）に3-2で競り勝ち決勝へ。決勝の相手は同門で昨年王者の田中廉人3等陸尉。序盤から激しい接近戦となり、秋山2尉がパワーパンチで第1ラウンドを4-1とリード。第2ラウンドは負傷による出血もあり田中3尉が取り返した。最終ラウンドも出血に耐えて攻め続けた秋山2尉が3-1の判定で2階級制覇を果たした。試合後、秋山2尉は「前年チャンピオンの田中3尉に気持ちで負けないように勝ちにいった。ボックスオフも気持ちで負けないで絶対に勝つ。」と来年の世界での戦いに向けて決意を語った。

女子ライト級の吉澤颯希（よしざわさつき）2等陸曹が、2年ぶり2度目となる全日本タイトルを獲得した。初戦は國府紗鈴依選手（日本体育大学）を5-0で下し決勝へ。決勝では仲間可南子選手（東北大学）と対戦し吉澤2曹は第1ラウンドから巧みに足を使い圧力をかけ、残り50秒でカウンターを的中させダウンを奪取。第2ラウンドでは開始直後からの猛攻を受け止めつつ主導権を握り、1分20秒にボディブローで2度目のダウンを奪う。さらに15秒後にも連続でボディを打ち抜き、3度目のダウンで2分3秒RSCで試合を決めた。自衛隊体育学校所属2年目での栄冠に吉澤2曹は「納得の内容ではないが、RSCで勝てて嬉しい。体育学校に来て初めての全日本で優勝できて良かった。」と喜びを語った。



男子ライトヘビー級の鳥谷部魁（とりやべかい）2等陸曹が、自衛隊体育学校所属1年目で全日本タイトルをつかんだ。2回戦で木場海星選手（法政大学）を5-0で下すと、準決勝では高橋慶翔選手（中央大学）に2回2分49秒、RSCで快勝し決勝へ。決勝の相手は中島鉄人選手（滋賀県スポーツ協会）。第1ラウンドは互いに距離を取る展開ながら、終盤に鳥谷部2曹の右ストレートが炸裂しダウンを奪い、5-0で優勢に立った。続く第2ラウンドでも冷静に間合いを計り、開始59秒に右の連打で2度目のダウンを奪い、そのままRSCで試合を決めた。試合後、鳥谷部2曹は「新しい環境での取り組みが実を結んだ。ボックスオフでも勝ち、さらに高いレベルを目指したい。」と語り成長への意欲を示した。

RSC（レフリーストップ・コンテスト）：選手がこれ以上戦うのは危険と判断した場合にレフリーストップして終了させること。